





## ◎ 2006年8月の繊維品輸出概況

### I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比3%増の6億8,137万ドルと微増推移－

2006年8月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比3%増の6億8,137万ドル（1－8月前年同期比：2%減）と微増となり、前月の微減から増加に転じた。

なお、為替が2005年8月の110.72円に対し、2006年8月は115.88円と約5%弱の円安推移となっていることから、円ベースでは8%増（同6%増）の789億5,700万円と、今年に入り、2月以降連続して増加推移が続いている。

#### <主要地域・国別輸出>

8月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の76%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けは、前年同月比1%増（同3%減）の5億647万ドルと微増に終わった。

東アジアの主要国向けでは、最大市場の中国が微増に転じ、その他韓国、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアが増勢で推移、一方、香港、台湾、フィリピン、インドネシアは減少推移となった。

純輸出市場向けは、シェア4%の西アジアは、サウジアラビアが減少したが、アラブ首長国、イランが共に増勢を維持し、全体として8%増（同23%増）の3,294万ドルと依然増勢を維持している。

欧米市場も揃って先月に続き好調な推移となり、シェア8%のEUは、織物類は減少したが、原料類（綿・糸）、不織布が好調で、15%増（同2%減）の5,974万ドルと大幅に増加した。また、同じくシェア8%の米国も、合繊綿、合繊長繊維糸、綿織物が好調に推移し、12%増（同5%増）の5,634万ドルと2桁の増加となった。

#### <主要品目別輸出>

これを主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で3%減（同1%減）、金額で5%増（同3%増）と数量減の金額増となった。

太宗の合繊綿は、数量で横ばい（同1%増）、金額で10%増（同4%増）となった。

この内、主力のアクリル綿は、イラン、インドネシア、米国が好調に推移したものの、最大市場の中国、タイが大幅に減少し、数量で5%減（同1%増）となった。但し単価の上昇により、金額は3%増（同4%増）となった。

一方、ポリエステル綿は、中国、タイ、EU、米国が好調に推移し、数量で10%増（同3%増）、金額で17%増（同1%増）と2桁の増加となった。

織維品輸出実績(2006年8月)

単位	2006年8月						2006年1月~8月						2005年実績			
	数量	金額		数量	前年同月比		数量	金額		数量	前年同期比		数量	金額		
		百万円	千ドル		数量	ドル		百万円	千ドル		数量	円		ドル	百万円	千ドル
織維品総合計																
原料(綿)合計	36,421	78,957	681,373	103	97	103	276,488	5,289,415	106	98	416,305	890,100	8,070,165			
スフ綿	4,979	10,947	94,468	89	84	89	40,106	677,513	99	111	103	107,778	978,717			
合繊綿	29,137	2,098	18,105	100	100	110	215,821	143,360	112	102	63,446	23,495	212,920			
(ポリエステル)	4,291	8,697	75,048	110	110	117	31,549	521,174	109	104	316,728	81,370	739,213			
(アクリル)	22,008	843	7,271	95	103	103	164,734	49,534	112	104	45,356	7,900	71,868			
糸 合計	11,496	6,171	53,254	107	107	113	89,032	377,364	108	100	132,208	95,133	864,266			
人絹糸	1,084	9,053	78,122	117	113	113	7,975	582,771	95	101	12,825	9,694	87,856			
スフ糸	6	891	7,691	100	100	127	217	57,667	105	86	306	430	3,918			
合繊長糸	9,445	6,972	60,166	108	108	115	73,478	2,310	108	100	107,118	72,886	662,944			
(ナイロン)	2,105	1,650	14,243	129	125	125	16,168	452,300	108	100	23,971	16,878	153,473			
(ポリエステル)	3,170	1,506	12,998	94	101	101	26,028	104,423	102	94	39,619	17,695	161,032			
合繊短糸	342	309	2,669	90	95	95	2,822	105,083	95	99	4,378	3,565	32,329			
綿 糸	402	279	2,410	89	83	83	3,221	21,359	97	90	5,540	4,213	38,008			
織物合計	99,054	28,905	249,439	103	97	97	800,244	2,035,960	101	94	1,220,260	359,644	3,257,973			
絹織物	601	967	8,344	99	90	90	5,230	74,925	98	91	8,261	13,387	121,576			
人絹織物	5,948	2,176	18,774	86	86	96	47,195	146,800	104	97	81,049	25,408	230,287			
スフ織物	575	258	2,225	89	89	93	6,402	23,842	77	81	12,434	5,172	46,859			
合繊長織物	49,565	10,902	94,083	102	99	99	382,275	718,300	102	97	569,210	121,637	1,100,944			
(ナイロン)	6,332	1,335	11,516	149	147	147	47,530	87,828	124	125	58,693	11,881	107,382			
(ポリエステル)	38,185	8,153	70,358	98	93	93	294,092	528,519	100	95	447,797	91,064	824,217			
合繊短織物	12,874	3,178	27,427	98	94	94	115,697	231,952	105	103	166,976	39,477	358,090			
綿織物	20,190	6,820	58,856	103	99	99	206,946	624,657	98	92	324,399	112,859	1,023,683			
毛織物	5,611	4,560	39,355	91	93	93	30,094	197,410	92	91	54,172	38,815	350,009			
不織布	51,967	5,422	46,794	124	117	117	397,385	349,286	107	113	592,985	55,758	505,607			
タイヤコード織物	1,458	260	2,242	130	108	108	10,982	15,602	97	98	15,300	2,565	23,416			
コーテッド織物	1,457	3,702	31,947	107	111	111	12,049	265,719	98	105	17,585	42,650	387,386			
ニット生地		6,145	53,028			110		47,813	113	105		66,435	600,666			
アパレル		3,946	34,052			95		26,663	101	94		40,709	370,175			
その他		10,578	91,281	102		102		83,102	108	100		119,428	1,081,958			

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。  
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。  
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類~59類の一部商品。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが好調に推移し、数量で 77% 増（同 5% 減）、金額で 72% 増（同 7% 減）と大きく増加した。

スフ綿は、韓国、パキスタン、EU が増加したが、最大市場の中国が激減し、数量で 16% 減（同 4% 減）、金額で 11% 減（同 2% 増）と大きく後退した。

**糸類**の輸出は、数量で 7% 増（同 1% 増）、金額で 13% 増（同横ばい）と、数量、金額共に好調な推移となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で 8% 増（同 2% 増）、金額で 15% 増（同横ばい）となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、EU、タイは健闘したが、中国、台湾、香港、米国が減少し、数量で 6% 減（同 4% 減）となった。但し、金額では単価のアップにより 1% 増（同 6% 減）の微増となった。一方、ナイロン長繊維糸は、米国、EU は減少したが、タイ、フィリピン、中国が大きく伸び、数量で 29% 増（同横ばい）、金額で 25% 増（同横ばい）と数量、金額共に大幅な増加となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリアクリル糸は、中国、EU は増加したが、香港、台湾が不振で、数量で 10% 減（同 8% 減）、金額で 7% 減（同 19% 減）と低調な推移となった。

また、人絹糸は、中国、韓国、EU が健闘し、数量で 17% 増（同 5% 減）、金額 13% 増（同 1% 増）となった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で 3% 増（同横ばい）、金額で 3% 減（同 6% 減）と、数量増の金額減となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で 2% 減（同横ばい）、金額で 7% 減（同 5% 減）となった。

地域的には、全体の 73% を占める東アジア向けは、ベトナム、台湾、シンガポール、スリランカが減少推移となったが、最大市場の中国を始め、韓国、香港、タイ、フィリピン、インドネシアが好調に推移し、東アジア全体としては 2% 増（同横ばい）となった。

一方、純輸出市場向けは、前半は好調に推移してきた西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に先月に続き減少し、西アジア全体として 20% 減（同 5% 増）となった。欧米市場向けは、EU は 19% 増（同 19% 増）と好調に推移したが、米国は対照的に 15% 減（同 20% 減）と不振が続いている。

ナイロン織物は、数量で 49% 増（同 24% 増）、金額で 47% 増（同 25% 増）と大幅な増勢が続いている。シェア 86% の東アジア向けは、主力の中国、香港、ベトナム、韓国が大きく伸び、全体として 65% 増（同 29% 増）と大幅な増加を記録した。その他では、シェア 5% の米国は 40% 減（同 30% 減）と後退が続いている。

綿織物は、数量で 3% 増（同 2% 減）、金額で 1% 減（同 8% 減）と、数量増の金額微減となった。83% のシェアを占める東アジア向けは、最大市場の中国が微減、韓国、タイ、インドネシアも後退したが、香港、ベトナム、マレーシアが大幅に増加し、東アジア全体として 3% 増

(同 1%減)となった。その他の市場では、シェア 11%の米国は 7%増 (同 5%減) と先月に続き好調な推移となった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で 4%減 (同 7%増)、金額で 7%減 (同 3%減) と低調な推移となった。全体の 60%を占める東アジア向けは、シンガポールが増加したものの、最大市場の中国を始め、香港、ベトナムが減少し、東アジア全体として 11%減 (同よこばい) となった。一方、シェア 39%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビアが微減となったが、アラブ首長国、クエートが好調で、西アジア全体として 6%増 (同 22%増) と増勢を維持した。

人絹織物は、数量で 14%減 (同 11%減)、金額で 4%減 (同 3%減) と数量、金額共に減少推移となった。シェア 74%の東アジアは、中国は増加推移となったが、最大市場の香港が大幅に減少し、東アジア全体として 11%減 (同 10%減) となった。シェア 14%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国は好調に推移したが、アフガニスタンが壊滅となり、全体として 12%減 (同 14%増) となった。一方、欧米市場は、EU が 21%増 (同 17%減)、米国は 18%増 (同 19%減) と揃って健闘した。

毛織物は、数量で 9%減 (同 8%減)、金額で 7%減 (同 9%減) と数量、金額共に低調な推移となった。地域的には、東アジアが 97%とほぼ全量を占めている。中国は横ばい、ベトナムは増加したが、香港、台湾、韓国が大幅に減少し、東アジア全体として 7%減 (同 8%減) となった。

**不織布**の輸出は、数量で 24%増 (同 7%増)、金額で 17%増 (同 5%増) と好調な推移となった。

全体の 53%を占める東アジアは、韓国、台湾、タイが減少したが、最大市場の中国を始め香港、インドネシアが好調に推移し、全体として 10%増 (同 10%減) となった。

欧米市場は、シェア 36%の米国は 33%増 (同 48%増) と依然好調を維持し、量的には最大の市場になっている。一方、シェア 6%の EU も 82%増 (同 2%減) と大幅な増加を記録した。

**コーテッド織物**の輸出は、数量で 7%増 (同 2%減)、金額で 11%増 (同 2%減) と数量、金額共に好調な推移となった。

全体の 83%を占める東アジアは、最大輸出先の中国及びベトナム、タイが好調に推移し、香港、インドネシアは減少したが、全体として 8%増 (同横ばい) となった。

欧米市場は、シェア 5%の EU は横ばい (同 12%増) に止まったが、同じくシェア 5%の米国は 16%増 (同 35%減) と徐々に増加推移となった。

**ニット生地**の輸出は、数量で 5%増 (同 4%増)、金額で 10%増 (同 5%増) と数量、金額共に増加推移となった。

全体の約 9 割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国が微増推移、また

韓国、台湾、ベトナムが増加推移となった。一方、香港、タイ、インドネシアは低調な推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は大幅な増加推移を続けているが、EUは低調な推移となった。

アパレルの輸出は、金額で5%減（同6%減）となった。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、香港、中国、韓国が増加したが、米国、台湾が不振で推移し、金額で8%減（同1%増）となった。下着類は、中国は減少したが、韓国、台湾、香港が健闘し、金額で27%増（同3%増）となった。

一方、ニット製衣類では、外衣類は、香港、EU、米国は増加したが、中国、韓国、台湾が減少し、金額で4%減（同1%減）となった。また、下着類は、台湾、香港、韓国が共に振るわず、金額で28%減（同21%減）となった。

その他二次製品は、金額で2%増（同横ばい）の微増となった。

## II. 原料（綿・糸）の輸出

### 〈綿輸出〉

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ポリエステル綿、ビニロン綿が増加推移となったが、スフ綿及び主力のアクリル綿が減少推移となり、全体では3%減の36,421トン、金額については5%増の9,447万ドルとなった。

### 2006年8月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年8月				2006年1～8月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	4,979	84	18,105	364	40,106	96	143,360	357
合繊綿	29,137	100	75,048	258	215,821	101	521,174	241
ポリエステル	4,291	110	7,271	169	31,549	103	49,534	157
アクリル	22,008	95	53,254	242	164,734	101	377,364	229
他合繊綿	2,839	133	14,523	512	19,538	99	94,276	483
人絹糸	1,084	117	7,691	710	7,975	95	57,667	723
合繊長糸	9,445	108	60,166	637	73,478	102	452,300	616
ナイロン	2,105	129	14,243	677	16,168	100	104,423	646
ポリエステル	3,170	94	12,998	410	26,028	96	105,083	404
他合長糸	4,170	110	32,926	790	31,283	108	242,794	776
綿糸	402	89	2,410	600	3,221	97	20,615	640

出所：財務省統計

### <糸輸出>

糸は、合繊短繊維糸、綿糸が減少推移、主力の合繊長繊維糸及び人絹糸が増加推移となり、全体では7%増の11,496トン、金額についても13%増の7,812万ドルとなった。

### Ⅲ. 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

8月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物が大幅な伸びを記録、また綿織物が量的に微増となり、ポリエステル長繊維織物、ポリエステル短繊維織物は微減推移となったが、織物トータルとしては、数量で前年同月比3%増（1-8月：前年同期比横ばい）となった。但し、単価の低下により、金額では3%減（同6%減）となった。

#### 2006年8月の織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出状況

単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%

	2006年8月			2006年1-8月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	601	8,344	99	5,230	74,925	99
人絹織物	5,948	18,774	86	47,195	146,800	89
スフ織物	575	2,225	89	6,402	23,842	77
合繊（長）織物	49,565	94,083	102	382,275	718,300	102
ポリ（長）織物	38,185	70,358	98	294,092	528,519	100
ナイロン織物	6,332	11,516	149	47,530	87,828	125
合繊（短）織物	12,874	27,427	98	115,697	231,952	105
ポリ（短）織物	11,913	25,105	96	108,413	216,981	107
綿織物	20,190	58,856	103	206,946	624,675	98
毛織物	5,611	39,355	91	30,094	197,410	92
コーテッド織物	1,457	31,947	107	12,049	265,719	98
ニット生地	14,116	53,028	105	122,795	413,678	104

- (注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。
2. コーテッド織物の数量単位はトン。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地、コーテッド織物は、数量、金額共に各々好調な推移となった。

市場的には、織物トータルでは、主力の東アジアは、主要国では、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り健闘した。一方、香港を始め台湾、シンガポール、インドネシア、タイは数量、金額共に何れも前年同月を下回り、低調な推移となった。

純輸出市場では、これまで好調を持続してきた西アジアは、アラブ首長国は数量、金額共に前年同月を上回ったが、サウジアラビアは数量、金額共に前年同月を下回った。

欧米市場は、EUは主力のポリエステル長繊維織物が量的に増加し、数量は前年同月を上回ったが、単価の低下により、金額は減少した。また米国はポリエステル長繊維織物は低迷したが、綿織物が増加し、EUとは逆に数量減の金額増となった。

#### IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年8月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは、布帛製下着の増加があったが、布帛製外衣、ニット製外衣・下着がいずれも不振に推移し、全体では前年同月比5%減の34,052千ドルとなった。他方、その他の品目については、敷物が減少推移、細幅織物・紐類が微増、漁網・その他の網・網地が増加推移となった。

#### 2006年8月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006年8月		2006年1～8月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	18,167	97	133,942	98
外衣	11,491	92	81,423	101
下着	4,317	127	30,149	103
スカーフ・マフラー	524	74	4,856	95
ニット製衣類・付属品	15,884	92	96,232	88
外衣	6,771	96	32,370	99
下着	5,166	72	41,931	79
敷物	2,285	88	18,993	90
漁網・網・網地	3,808	121	30,028	116
細幅織物・紐類	13,150	101	118,990	95

## ◎ 2006年7月の繊維品輸入概況

### 1. 繊維製品計

7月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比110.4%（前月比は118.0%）、ドルベース同106.8%（前月比は116.8%）、数量(重量)同105.6%（前月比は107.0%）と、円金額が12ヶ月連続で増加、ドル金額は5ヶ月連続増加、数量は4ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加した。前月比は、秋冬物の入荷時期を迎え金額、数量ともに増加した。

糸類は数量で前年同期比6.6%増と14ヶ月ぶりに増加。内訳は、毛糸、人織(長)糸、人織(短)糸が増加、絹糸、綿糸、その他の糸が減少した。織物類は同4.9%増と2ヶ月ぶりに増加し、今年1月以降、1ヶ月毎に増減を繰り返している。毛織物、綿織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地が増加、絹織物、黄麻織物、その他の織物が減少した。衣類は同2.7%の増加となり4ヶ月ぶりに減少した前月から増加に転じた。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同10.7%増で5ヶ月続けて増加した。

前月は前年同期比で円金額が6.7%増加、ドル金額も1.2%の増加、数量は1.2%の減少となったが、今月は円金額が10.4%、ドル金額が6.8%、数量も5.6%と数量、金額揃って増加した。なお、7月の為替相場は前年同月比3.3%円安の115円67銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が14.8%、織物類は13.2%、太宗を占める衣類は5.2%、二次製品も11.6%とそれぞれ増加し、繊維製品計では6.8%の増加となった。

### 2. うち糸類

➤ 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比は横這いとなったものの、前年同月比は8.7%減となり7ヶ月連続のマイナスとなった。これは、長引く国内素材需要の落ち込みと我が国綿糸市況の下落によるものと見られる。綿糸輸入の84%を占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、国別では首位のパキスタンが7.5%増と年初来の下降基調にストップがかり、2位のインドは横這い、3位のインドネシアは5,000梱台は堅持したものの9.3%の減少となった。番手別では、20番手中心がパキスタンの増加もあり23.2%の大幅増、一方30番手中心は17.5%、40番手中心も24.1%の減少となったが、40番手以上はインドの増加もあり17.6%のプラスとなった。糸種別にみると、カード糸が5.7%増となったものの、コマ糸は2.7%の減少となった。なお、混紡綿糸は1.6%の微減に留まった。

➤ 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース21.9%増と3ヶ月連続の増加となり、前月に引き続き20%を超える大幅増となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同57.7%増と大きく増加し7ヶ月連続で増加、太宗を占める梳毛糸も同19.6%増となった。国別では、トップシエアの中国が同26.9%増と4ヶ月連続で増加、第2位のマレーシアも同25.4%増加した。この他の主要国では台湾、タイ、インドが増加、ペルー、イタリアからの輸入は減少した。

- ▶ 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸は前月比 11.3%、前年同月比も 12.3%と前月とは対照的な 2 桁の増加となった。主要商品別に前月に比較すると、主力商品の台湾からのポリエステル糸が 4.2%の増加となったのをはじめナイロン糸も 52.5%の大幅増となり 2 ヶ月ぶりに 2,000 トンの大台を回復、量的に少ない人絹糸も 8.1%増となるなど軒並みプラスとなった。一方、人織(短)糸も主力商品の T/C、T/R のポリエステル紡績糸が 7.4%、最近増加傾向にあるスフ糸 3.6%、回復基調にあるアクリル紡績糸も 7.3%それぞれ増加となり、全体で前月比 4.5%、前年同月も 13.4%のプラスとなった。

### 3. うち織物類

- ▶ 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 10.3%、前年同月比 11.5%の増加となった。これは我国の綿織物市況は回復していないものの、中国の価額上昇傾向にあることからシーズン前の前倒し輸入によるところが大きいものと思われる。国別で前月に比較すると、主力で全体の 78%を占める中国が 15.4%、2 位のインドネシアが 7.3%、3 位のパキスタンも 6.1%と主要国が軒並み増加した。品種別にみると、ポップリン、金巾、粗布・細布の 3 大商品は 20.7%、8.5%、42.1%それぞれ増加となった。
- ▶ 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 3.8%増加し、2 ヶ月連続の増加となった。中国からの輸入が前月大幅増の反動もあり同 0.8%の微減となったが、イタリアからの輸入が 12.6%増と前月に引き続き 2 桁の増加となった。また、第 3 位のイギリスからは同 16.8%増と前月までの減少から増加に転じた。品種別では、紡毛織物が同 11.6%減と 2 ヶ月ぶりに減少、主力の梳毛織物は同 7.0%増と 2 ヶ月連続で増加した。
- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 5.2%の減となったものの、前年同月比は 11.4%の増となった。品目別に前月に比較すると量的に少ないナイロン織物が 2.5 倍に急増したものの、主力商品のポリエステル織物が 3.0%の減、ポリプロピレン等その他織物も 17.0%の大きなマイナスとなった。国別にみると、首位の中国が 1.6%の微減、2 位の韓国 19.8%、3 位の台湾 20.7%と大きく減少となったが、インドネシア、ベトナム等その他の国が 8.9%の増加となった。一方、人織(短)織物は主力で T/C、T/R のポリエステル織物が 13.4%、ふすま、ガムテープ用のスフ織物も 17.7%増加となったことにより、全体では前月比 13.7%、前年同月比も 27.6%のプラスとなった。

### 4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で 3.3%増、布帛製衣類も同 3.3%増、身の廻り品も重量ベース 5.7%増となり、衣類計で重量ベース 2.7%増加となった。ニット製衣類は 4 ヶ月ぶりに減少した前月から増加に転じ、布帛製衣類、身の廻り品はともに 5 ヶ月連続で増加、衣類計は 4 ヶ月ぶりの減少となった前月から再び増加となった。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は対前年同月比（枚数）でニット製衣類が 4.1%増加し 2 ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類は 3.5%増加し 5 ヶ月連続で増加、身の廻り品も重量ベース 6.8%増で 5 ヶ月連続の増加となった。今年 1～7 月の衣類計（重量）のシェアは 90.6%（金額ベースでのシェアは 81.4%）。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 18.9%減少、布帛製衣類も同 15.5%減となり、ニット製衣類、布帛製衣類ともに 3 ヶ月連続で減少した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 18.7%減と 18 ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、布帛製衣類も同 1.3%減とこちらも 13 ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少となった。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 2.7%減と 2 ヶ月連続で減少、布帛製衣類は同 12.2%増と 9 ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではアンサンブル、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツが増加、コート、スーツ、スポーツウェアが減少、セーター、下着類はほぼ横這いとなった。中でも、ドレスは対前年同月比（枚数）で 2 倍超の 226.6%となった。布帛製外衣類では紳士用が同 8.0%増、婦人用も同 3.6%増加した。紳士用では、コート、ジャケット、ズボンが増加、スーツ、アンサンブル、下着類が減少し、婦人用は、コート、アンサンブル、ジャケット、ドレス、ズボンが増加、スーツ、スカート、ブラウス、下着類が減少となった。

前月は数量が 1.2%の減少、金額は円ベースで 6.7%の増加、ドルも 1.2%増加となったが、今月は数量が 5.6%の増加、金額も円ベースで 10.4%、ドルでも 6.8%とそれぞれ増加となり、2 ヶ月ぶりに各品目ともプラスとなり依然増加基調にあることを示した。

この夏の国内マーケットは、関東地方などで梅雨明けが遅れるなど天候不順から衣料品の動きが鈍く、総じて夏物衣料商戦は苦戦を強いられた。2 年目となった「クールビズ」は、メインアイテムのシャツがまずまずの売れ行きだったが、スーツなど関連商品の購買に波及するような昨年の勢いは見られなかった。



◎ 木材梱包材輸入規制（ISPM No.15）採用予定国

「国際貿易における木製梱包材料の規制ガイドライン」（ISPM No. 15）の 2006 年 8 月 1 日現在における採用予定国は、以下の通り。

国名	WTO SPS 通報／発効日	消毒処理方法／その他の事項
<b>&lt;北中南米&gt;</b>		
米 国	米国、カナダ、メキシコの NAFTA 三国は協調して段階的に導入を採用する。	HT MB 違反の場合は原則として積戻し・再輸出。 ダンネージに関してもマークを要求。
カナダ	Phase □ 2006 年 7 月 5 日以降全面的に行う。貨物と梱包材を仕分けすることができなければ全貨物を再輸出とする。また、貨物本体と梱包材の分離費用・積戻し費用は輸入者負担。	HT MB カナダで在来船ダンネージなどマークを付けることが難しい場合は消毒証明書も認める模様。
メキシコ		HT (KD、CPI 含む) MB マークはスタンプや焼印。ラベル・シールは不可。
アルゼンチン	G/SPS/N/ARG/73 2005 年 6 月 1 日	輸出入に適用する。 ISPM No. 15 との相違はない模様。
ボリビア	G/SPS/N/BOL/9 2005 年 7 月 23 日から発効	Debarking（樹皮剥ぎ）を要求。
ブラジル	2004 年 10 月 1 日 緊急対応規則第四号 2005 年 6 月 1 日	2005/08/01 から日本では消毒証明書発行を停止。 2006/03/17 付官報で ISPM No. 15 対応を正式に認める。
チ リ	G/SPS/N/CHL/170 2005 年 6 月 1 日	木製梱包材のチリへの輸入に関する検疫規則（西語） Debarking（樹皮剥ぎ）を要求。
コロンビア	G/SPS/N/COL/85 2005 年 9 月 16 日	ISPM 準拠の輸入規則。 輸出マーキングシステムは樹立されている。
コスタリカ	G/SPS/N/CRI/35 2006 年 3 月 19 日	米国検疫局 Website 情報。 輸出マーキングシステムは樹立されている。
エクアドル	G/SPS/N/ECU/5 2005 年 9 月 20 日	輸入規制は 2005 年 9 月 30 日より適用開始。 輸出マーキングシステムは樹立されている。
グアテマラ	G/SPS/N/GTM/34 2005 年 9 月 16 日	輸入規制は 2005 年 9 月 16 日より適用開始。 輸出マーキングシステムは樹立されている。
ホンジュラス	G/SPS/N/HND/11 2006 年 2 月 25 日	HT MB ISPM No. 15 との相違はない模様。
パナマ	未導入	
パラグアイ	G/SPS/N/PRY/2 2005 年 6 月 28 日	HT MB ISPM No. 15 との相違はない模様。
ペルー	輸出認証規則は 2005 年 3 月 1 日より開始 輸入規制は 2005 年 9 月 1 日より	HT MB 輸入規則に関して導入実施時期を発表。 ISPM No. 15 との相違はない模様。

トリニダード・トバゴ	G/SPS/N/TTO/5	HT MB ISPM No. 15 基準の輸出マーキング規則。 輸入規則は後日発表。
ベネズエラ	G/SPS/N/VEN/12 2005年6月1日	米国検疫局 Website に報告されている。 ISPM No. 15 との相違はない模様。
<b>&lt;欧州・アフリカ・中東&gt;</b>		
欧州連合 (EU)	2003年11月10日 EU 規則に従って加盟各国が制定	HT MB 但し、ダンネージへのマーキングについては 2007 年末まで猶予期間あり。 DB(Debarking)マーク要求：2008年12月まで猶予。
スイス	2004年2月5日 2005年3月1日 EU と発効日を同調	HT MB スイスは EU 非加盟国。規則は ISPM No. 15 援用。EU と同基準にすれば問題ない。
ブルガリア	2006年1月24日 G/SPS/N/BGR/24 2006年6月1日	HT MB ISPM No. 15 基準
トルコ	G/SPS/N/TUR/4 2006年1月1日	HT MB ISPM No. 15 基準
エジプト	G/SPS/N/EGY/2 2005年10月1日	HT MB ISPM No. 15 基準
ヨルダン	2006年1月12日 G/SPS/N/JOR/14	HT MB 米国検疫局 Website 英国森林局
レバノン	WTO 未加盟 2006年3月26日	HT MB 米国検疫局 Website 英国森林局
ナイジェリア	WTO 通告はなし 2004年9月30日より既に導入済み	ISPM No. 15 基準 欧米各国は WTO 通告を勧告中。英・米検疫当局では輸出者に注意を促している。
南アフリカ	2004年4月27日 WTO に通告 2005年3月1日より厳格適用	HT MB ISPM No. 15 基準 ステッカー不可。
シリア	WTO 未加盟 2006年4月1日	HT MB 日本の農水省に大使館経由、通知があった模様。
ウクライナ	EPPO (欧州植物検疫機構) に対して通告 2005年10月1日	ISPM No. 15 に忠実な規則 輸出・輸入ともに採用 (WTO の通告はまだない)。
<b>&lt;大洋州・アジア&gt;</b>		
豪州	2004年9月1日より ISPM No. 15 基準を認める 2006年1月1日より、航空貨物と在来船貨物も、合板梱包材は、合板そのものの作製日の規制あり。	HT MB (MB の場合は豪州基準) コンテナ貨物は Supplier' s Letterhead 「声明文」が必要。 合板梱包材は 「Plywood Products Certificate」が必要。
ニュージーランド	2006年5月1日より新規則 従来の規則に ISPM 基準も追加して認めたもの。 新しい合板・加工木材の梱包材は消毒不要。	HT MB (MB の場合は豪州基準) 「声明文」(サンプル)を付ける必要あり。 ISPM No. 15 基準を満たしていれば、消毒証明書は不要。
サモア	ISPM No. 15 基準でマークがあること WTO 未加盟 さもなければ消毒証明書を付けること	HT MB 豪州と同じ基準 豪州検疫局サイト情報
セーシェル	WTO 未加盟 2006年3月1日	HT MB 英国森林局情報
中国	2006年1月1日	HT MB ただし、松材線虫生息国：

	緩和措置 広告第 2 号 詳細規定 公告第 32 号 2006 年 6 月末まで緩和措置で積戻しはない	日本、韓国、北朝鮮、台湾、香港、米国、カナダ、メキシコ、ポルトガルからの針葉樹林の MB は別基準。
インド	2004 年 11 月 1 日 B/L Date 分より適用 ISPM No. 15 基準	ISPM No. 15 基準採用国の場合はマーキング。不採用国の場合は消毒証明書。
インドネシア	2004 年 11 月 1 日 G/SPS/N/IND/20 (輸出マーク) 2006 年 5 月 29 日 G/SPS/N/IND/27 輸入規制を始める WTO 通知あり。	輸出マーキングシステムは樹立されている。 発効日は 2006 年末 (同国検疫局に問い合わせ中)。 “Packing Declaration” の書式添付が要る見込み。
台湾	未導入 (輸入規制は計画なし)	輸出認証マーク関連規則を定めた。
韓国	G/SPS/N/KORI/138/Add. 1 2005 年 6 月 1 日	HT MB ただし、日本、中国、台湾、米国、カナダ、メキシコ、ポルトガルからの針葉樹林の MB は別基準。
フィリピン	G/SPS/N/PHL/71/Add. 1 2005 年 6 月 1 日より完全導入。	ISPM No. 15 基準に忠実な規則 輸出認証方式と輸入規則を合わせた規則。
ベトナム	WTO 未加盟 2005 年 6 月 5 日	米国検疫局 Website 情報 これは輸出マーキングシステムを作ったことと思われる。
日本	導入については検討中だが、具体的計画を策定中。 2007 年 4 月頃には導入予定	農水省植物防疫所 全国植物検疫協会 円形輸出認証マークを長方形国際基準に改定

注：

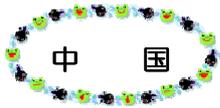
- ①WTO SPS 通報：WTO (世界貿易機関) に衛生植物検疫規則変更の通知 (SPS 通報 SPS Notification) をした日付。
- ②発効日：輸入木材梱包材に関する ISPM No. 15 準拠の新規則の発効日。ただし、猶予期間を設ける国もある。
- ③消毒処理方法：木材梱包材に対する消毒方法。マークには、熱処理は HT、メチルブロマイド燻蒸は MB と表示する。
- ④その他の事項：Pinewood Nematode-*Bursaphelenchus xylophilus* (マツノザイ線虫) 生息国に対しては熱処理しか認めない国もある。ダンネージのマーキングについては ISPM No. 15 より厳しい国もある。また、マーキングはラベルやシールを認めない国もある。

ISPM=International Standards for Phytosanitary Measures (植物防疫国際基準)

SPS=Sanitary and Phytosanitary Measures (検疫・衛生措置)

FAO=Food and Agriculture Organization of the United Nations (国連食糧農業機関)

IPPC=International Plant Protection Convention (国際植物保護条約)



## ◎ 2006年1～7月の繊維品貿易・輸出は依然高率の伸びを維持、 輸入も大幅な増加を記録

### 【輸出】

－25%増の729億6,600万ドルと依然高率の伸びを維持－

主要市場の欧米向けに規制枠が再び設定され、その動向が注目される2006年の中国の繊維品輸出であるが、1～7月の輸出は前年同期比25%増と依然高率の伸びを維持している。

単月での伸びを見ると、1月の24%増、2月4%増、3月36%増、4月27%増、5月31%増、6月25%増、7月23%増と、2月に一度伸び率は鈍化したが、8月は3月に次ぐ大きな伸びを記録しており、依然増勢が続いている。

### <地域別、国別輸出状況>

地域別では、東アジアがシェア40%（前年同期比22%増）、ヨーロッパが同27%（同39%増）、北米が同15%（同6%増）、西アジアが同6%（同30%増）、中米が同3%（同57%増）、南米が同2%（同48%増）、アフリカが同5%（同28%増）、大洋州が同2%（同11%増）の市場構成となっており、各地域共に軒並み増勢推移となっている。

国別では、1位EU（110億9,459万ドル：6%増）、続いて香港（97億9,651万ドル：25%増）、日本（96億3,585万ドル：8%増）、米国（93億2,382万ドル：1%増）、韓国（27億8,181万ドル：41%増）、ロシア（21億7,518万ドル：25%増）、カナダ（15億9,683万ドル：47%増）、アラブ首長国（14億3,414万ドル：17%増）、オーストラリア（13億741万ドル：10%増）、シンガポール（11億6,963万ドル：54%増）の順で、この10大市場で輸出全体の70%のシェアを占めている。

昨年は枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に、特に突出した伸びとなったが、今年はEU、米国向けに枠が再設定されたこともあり、両国への伸びは大幅に鈍化している。代わって、韓国、香港、シンガポール等の東アジア諸国、ロシア、ルーマニア、カザフスタン等の旧東欧諸国、カナダ、中南米諸国等が大きく伸び、EU、米国向けの伸びの鈍化をカバーしているのが、特徴的な傾向である。

### <品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は、米国、EU向けの伸びが、枠の再設定により、昨年と比べ大幅に減速しているにも拘らず、東アジア諸国、旧東欧諸国、カナダ等その他の諸国が大幅に伸び、30%増の456億

622 万ドルと大幅な伸びを記録しているのが目立っている。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が 41%増の 226 億 8,607 万ドルと大きく伸びており、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出も 20%増の 229 億 2,014 万ドルと高い伸びを維持している。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品は、トップ市場は日本（36 億 9,022 万ドル：10%増）、続いて EU（28 億 4,739 万ドル：11%減）、香港（25 億 5,895 万ドル：80%増）、米国（21 億 8,828 万ドル：16%減）、ルーマニア（20 億 9,881 万ドル：12 倍増）、ロシア（9 億 7,720 万ドル：97%増）、韓国（8 億 1,103 万ドル：69%増）、カナダ（5 億 5,916 万ドル：66%増）、オーストラリア（5 億 5,676 万ドル：5%増）、カザフスタン（5 億 1,218 万ドル：133%増の）の順となっており、米国、EU は今年の激増もあり、減少推移となっているが、他方東アジアの香港、韓国、東欧のロシア、ルーマニア、カザフスタン、またカナダ等が激増しているのが注目される。

また、布帛製衣料品の輸出先は、1 位が EU（49 億 1,433 万ドル：14%増）、続いて日本（41 億 9,474 万ドル：5%増）、米国（39 億 1,701 万ドル：1%減）、香港（22 億 2,644 万ドル：21%増）、韓国（8 億 1,748 万ドル：47%増）、ロシア（7 億 4,360 万ドル：6%減）、カナダ（7 億 1,837 万ドル：51%増）、ルーマニア（7 億 1,539 万ドル：618%増）、シンガポール（4 億 4,971 万ドル：116%増）の順で、ここでも、米国、EU が伸び悩み、一方、韓国、香港、シンガポール、カナダ、ルーマニア向けの大幅増加が目立っている。

織物類の輸出は、太宗の綿織物、また合繊短繊維織物が好調に推移しており、ポリエステル長繊維織物は伸び悩んでいるが、全体として、数量で 9%増の 101 億 1,196 万メートル、金額で 12%増の 95 億 707 万ドルと数量、金額共に順調に推移している。

糸類の輸出も各品目共に好調で、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸の増加が著しく、また太宗の綿糸、合繊短繊維糸も大幅に増加しており、全体として数量で 27%増の 101 万 7,618 トン、金額で 22%増の 36 億 190 万ドルと、数量、金額共に好調な推移となっている。

綿類の輸出も、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が何れも大きく伸び、数量で 36%増の 27 万 1,170 トン、金額で 16%増の 7 億 3,493 万ドルと規模は未だ小さいが、高い伸びを記録している。

## 【輸 入】

—20%増の 155 億 7,927 万ドルと大幅な増加を記録—

繊維品輸入は、織物類の輸入は減少しているが、原料類で、国内の綿花不足から特に米国からの綿花の輸入が激増していることもあり、全体として 20%増の 155 億 7,923 万ドルと大幅な伸びとなっている。

この結果、中国の 1～7 月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比 26%増の 573 億 8,677 万ドルとなっている。

2006年7月の中国の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸 入				輸 出				
	2005年実績		2006年1月～7月		2005年実績		2006年1月～7月		前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計		23,446,081		15,579,231		72,966,003		125	
原料(綿)合計	TON	4,416,112	6,817,524	3,778,380	5,587,843	271,170	734,934	136	116
スフ綿	TON	164,419	467,136	68,133	196,751	26,748	40,336	267	226
合繊綿	TON	835,306	1,381,998	388,743	673,320	184,127	233,427	140	134
(ポリエステル)	TON	346,184	423,153	160,817	199,999	159,585	170,567	145	144
(アクリル)	TON	484,623	878,156	214,025	421,097	994	2,600	117	152
糸合計	TON	1,660,050	4,042,957	1,044,727	2,584,277	1,017,618	3,601,902	127	122
人絹糸	TON	26,236	78,212	18,424	51,614	50,109	180,979	133	134
スフ糸	TON	26,879	89,390	17,904	59,636	22,448	93,389	123	125
合繊長繊維糸	TON	616,570	1,543,903	345,570	892,692	323,993	718,561	159	147
(ナイロン)	TON	251,020	662,585	159,656	442,207	54,916	191,004	129	130
(ポリエステル)	TON	295,494	522,692	153,336	278,214	229,508	367,319	166	152
合繊短繊維糸	TON	149,671	376,436	84,949	230,407	228,043	666,106	116	116
綿糸	TON	793,656	1,697,154	548,773	1,182,431	331,206	1,052,507	118	126
織物合計	千LM	4,638,058	6,009,460	2,445,197	3,329,606	10,111,964	9,507,069	109	112
絹織物	千LM	45,693	117,096	20,566	57,962	131,172	422,187	82	109
人絹織物	千LM	82,694	122,550	42,611	76,500	23,067	19,418	108	105
スフ織物	千LM	58,124	100,319	26,845	53,329	575,007	424,271	111	113
合繊長繊維織物	千LM	2,016,102	2,029,732	1,098,680	1,147,914	3,617,946	2,678,680	105	101
(ナイロン)	千LM	660,899	585,866	328,125	322,872	161,192	92,662	117	120
(ポリエステル)	千LM	912,650	1,028,690	545,755	583,833	3,018,388	2,202,614	105	100
合繊短繊維織物	千LM	695,082	792,728	351,980	433,480	2,184,342	1,637,479	115	130
綿織物	千LM	1,584,514	2,159,441	824,303	1,226,896	3,380,483	3,756,451	112	116
毛織物	千LM	70,407	535,575	35,084	263,570	60,158	327,512	100	101
不織布	TON	135,081	490,543	86,663	331,725	108,140	248,072	123	128
タイヤコード織物	TON	18,313	71,770	10,099	40,390	44,679	142,377	101	93
コーテッド織物	TON	284,082	1,025,710	142,348	642,380	326,288	783,980	129	130
ニット生地	TON	460,587	1,879,207	285,636	1,183,606	646,722	2,605,622	125	130
ニット製衣料			695,240		408,394		22,686,074		141
布帛製衣料			816,218		481,039		22,920,144		120
その他			1,597,452		989,973		9,735,829		120

出所：中国海関統計

### <地域別、国別輸入状況>

地域別では、東アジアがシェア 66%（前年同期比：8%増）を占め、西アジアが同 3%（同 76%増）、ヨーロッパが同 6%（同 11%増）、北米が同 14%（同 103%増）、中米が同 0.3%（同 43%減）、南米が同 1%（同 63%増）、アフリカが同 3%（同 112%増）、大洋州が同 5%（同 12%増）の市場構成となっている。

国別では、1位米国（22億2,670万ドル：108%増）、続いて日本（20億6,892万ドル：5%減）、台湾（19億6,692万ドル：1%増）、韓国（16億278万ドル：8%減）、香港（10億5,626万ドル：8%増）、EU（9億1,468万ドル：9%増）、オーストラリア（7億4,295万ドル：11%増）、インド（6億6,598万ドル：345%増）、パキスタン（4億1,284万ドル：30%増）、ウズベキスタン（4億67万ドル：68%増）の順で、この10大市場で全体の輸出の77%を占めている。

### <品目別輸入状況>

品目別輸入を見ると、綿関係では、化合繊は低調な推移となっているが、天然繊維は米国、インド等よりの綿花の輸入が著増しており、全体として、数量で72%増の377万8,380トン、金額で60%増の55億8,784万ドルと大幅な増加となっている。

糸関係は、太宗の綿糸が大きく増加しており、合繊長繊維糸はほぼ横ばいで推移しているが、全体として数量で9%増の104万4,727トン、金額も9%増の25億8,428万ドルと数量、金額共に増勢で推移している。

一方、織物類は、綿織物、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物等各品目が総じて低調な推移となっており、トータルでは、数量で7%減の24億4,520万メートル、金額で4%減の33億2,961万ドルとなっている。

その他品目では、ニット生地が金額で9%増の11億8,361万ドル、コーテッド織物が7%増の6億4,238万ドルとなっている。

また、衣料品は、額は小さいが、ニット製衣料品が30%増の4億839万ドル、布帛製衣料品が20%増の4億8,104万ドルと何れも高い伸びを記録している。



インド

◎ 2006年1～3月の繊維品貿易・輸出は大幅増加を維持、  
輸入は低調に推移

<輸出は21%増の52億3,600万ドルと昨年に続き大幅増加を維持>

インドの2006年1～3月の繊維品輸出は、前年同期比21%増の52億3,603万ドルと、昨年同様クオータフリーの恩恵を享受し、大幅な増加を記録している。

これを地域別に見ると、シェア 39%の欧州は 18%増、同 29%の北米は 20%増と両地域が 2 桁増となり、また同 17%の東アジアは 73%増と大幅な増加となった。東アジア向けの大幅増の最大要因は中国向けの綿花の著増によるものである。この 3 地域で全体の輸出の 84%を占めている。

主要輸出国は、EU (18 億 8,259 万ドル：19%増)、米国 (13 億 7,244 万ドル：21%増)、アラブ首長国 (2 億 5,673 万ドル：6%減)、中国 (2 億 9,462 万ドル：739%増)、カナダ (1 億 2,952 万ドル：11%増)、バングラデシュ (1 億 1,821 万ドル：61%増)、日本 (8,473 万ドル：9%増)、サウジアラビア (7,719 万ドル：5%増)、トルコ (7,275 万ドル：9%増)、韓国 (7,250 万ドル：13%増) の順となっており、アラブ首長国を除いて全て好調な推移となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全輸出の 49%を占めているが、内訳は、ニット製衣料品が 24%増の 8 億 9,762 万ドル、布帛製衣料品が 26%増の 16 億 8,392 万ドルと何れも好調で高い伸びを記録し、インドの繊維品輸出を牽引している。

ニット製衣料品市場のベスト 5 は、EU (4 億 4,736 万ドル：19%増)、米国 (2 億 8,018 万ドル：47%増)、カナダ (4,655 万ドル：3%増)、アラブ首長国 (4,212 万ドル：7%増)、サウジアラビア (1,297 万ドル：28%増) で、特に米国と EU 向けで 81%と圧倒的なシェアを占めている。

布帛製衣料品市場のベスト 5 は、EU (7 億 7,515 万ドル：38%増)、米国 (5 億 8,995 万ドル：15%増)、アラブ首長国 (6,751 万ドル：10%増)、カナダ (4,480 万ドル：26%増)、日本 (3,728 万ドル：32%増) で、布帛製衣料品と同様、EU と米国が 81%と圧倒的なシェアを占め、揃って大きな伸びを記録している。

織物類の輸出は、逆に減少しており、全体として、11%減の 5 億 8,019 万ドルとなった。主要織物では、綿織物が 9%減の 2 億 2,611 万ドル、合繊長繊維織物が 24%減の 1 億 4,280 万ドル、逆に合繊短繊維織物は 20%増の 9,177 万ドルとなっている。

綿織物市場のベスト 5 は、EU (4,261 万ドル：14%減)、アラブ首長国 (2,125 万ドル：36%増)、スリランカ (2,072 万ドル：20%増)、バングラデシュ (1,871 万ドル：39%増)、米国 (1,724 万ドル：4%減) で、合繊長繊維織物のベスト 5 は、アラブ首長国 (5,200 万ドル：37%減)、EU (1,512 万ドル：3%減)、マレーシア (900 万ドル：40%減)、スリランカ (816 万ドル：7%減)、アフガニスタン (597 万ドル：14%減) となっている。

一方、原料関係の輸出は好調で、まず綿類は、合繊綿は大幅な減少となっているが、綿花が中国向けを中心に著増し、全体で 300%増の 3 億 9,455 万ドルとなった。また、糸類は綿糸、合繊長繊維糸が共に好調で、全体として 13%増の 6 億 5,914 万ドルとなっている。

#### <輸入は横ばいの 6 億 3,718 万ドルと低調に推移>

輸入額は輸出額の 12%と額は未だ小さく、原料 (綿・糸)、織物は低調に推移、衣料品は増加しているが、全体として、前年同期比横ばいの 6 億 3,718 万ドルに止まっている。

2006年1～3月のインドの繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸 入				輸 出				前年比
	2005年実績		2006年(1～3)		2005年実績		2006年(1～3)		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
繊維品合計									
原料(綿)合計	TON	2,663,634	TON	637,177	TON	5,238,029	TON	363,400	121
スフ綿	TON	315,341	TON	96,182	TON	365,777	TON	166	141
合繊綿	TON	6,477	TON	2,200	TON	3,979	TON	6,589	32
(ポリエステル)	TON	32,191	TON	5,340	TON	10,944	TON	13,775	33
(アクリル)	TON	15,438	TON	3,371	TON	10,139	TON	11,875	13
糸合計	TON	13,322	TON	1,444	TON	438	TON	820	113
人絹糸	TON	203,863	TON	469,758	TON	2,193,903	TON	272,163	107
スフ糸	TON	11,058	TON	48,203	TON	70,683	TON	5,787	104
合繊長繊維糸	TON	2,172	TON	5,145	TON	102,431	TON	14,920	127
(ナイロン)	TON	154,177	TON	299,052	TON	232,705	TON	40,120	111
(ポリエステル)	TON	34,443	TON	103,783	TON	29,758	TON	1,591	66
合繊短繊維糸	TON	107,038	TON	147,479	TON	175,098	TON	36,671	117
綿糸	TON	19,123	TON	41,347	TON	253,924	TON	35,581	111
織物合計	TON	4,316	TON	12,540	TON	1,414,104	TON	156,444	118
絹織物	千SM	403,986	千SM	714,882	千SM	2,365,714	千SM	358,306	96
人絹織物	千SM	70,126	千SM	192,574	千SM	386,077	千SM	9,707	85,415
スフ織物	千SM	6,000	千SM	6,427	千SM	45,104	千SM	5,519	106
合繊長繊維織物	千SM	4,052	千SM	6,008	千SM	20,745	千SM	2,237	4,858
(ナイロン)	千SM	130,041	千SM	119,395	千SM	611,138	千SM	99,755	83
(ポリエステル)	千SM	7,571	千SM	10,887	千SM	17,005	千SM	3,090	4,784
合繊短繊維織物	千SM	107,091	千SM	78,946	千SM	221,540	千SM	34,908	55,973
綿織物	千SM	24,325	千SM	41,075	千SM	326,990	千SM	60,025	91,774
毛織物	千SM	128,360	千SM	259,252	千SM	861,075	千SM	151,605	226,108
不織布	千SM	6,586	千SM	43,882	千SM	27,858	千SM	985	5,833
タイヤコード織物	TON	14,094	TON	44,314	TON	662	TON	23	143
コーテッド織物	千SM	56,994	千SM	208,677	千SM	12,681	千SM	1,401	4,703
ニット生地	千SM	59,094	千SM	108,021	千SM	31,730	千SM	5,223	7,079
ニット製衣料	TON	28,747	TON	93,530	TON	44,284	TON	4,713	17,433
布帛製衣料		15,461		5,327		3,016,839		897,616	124
その他		32,841		13,007		5,061,213		1,683,923	126
		302,047		80,944		3,689,592		991,259	109

出所：インド通関統計

地域別では、東アジアが70%と圧倒的なシェアを占めており、1%微増の4億4,516万ドル、シェア11%の欧州が2%増の6,727万ドル、同7%の北米は18%増と増加しているが、その他の地域は大洋州を始め揃って大幅な減少となっている。

国別の主要輸入先は、中国(10億6,561万ドル:70%増)、EU(2億5,947万ドル:25%増)、台湾(1億6,287万ドル:16%増)、韓国(1億977万ドル:9%減)、香港(1億942万ドル:43%増)、豪州(1億834万ドル:4%増)、米国(1億686万ドル:13%減)、タイ(9,339万ドル:47%増)となっている。

品目別では、綿関係では、合繊綿が大幅に減少したが、スフ綿の輸入が大きく伸びトータルで1%減の1億8,853万ドルとなった。

糸関係は人絹糸、綿糸は増加したが、太宗の合繊長繊維糸が大幅に減少し、全体で13%減の1億578万ドルとなった。

織物関係は、綿織物、合繊短繊維織物の輸入は増加したが、合繊長繊維織物、絹織物が減少し、全体で4%減の1億3,898万ドルとなった。

衣料品は、未だ額は僅少であるが、高率の伸びとなっている。



## ◎ 2006年7月の繊維品輸入、中国が再び増加

2006年7月の米繊維品輸入は5%増の46億平方メートル換算(SME)となり、今年では月間過去最高を記録した前月に続く高水準の輸入となった。地域別では、トップサプライヤーの中国が8%増と、前月のマイナスから再び増加に転じた。

2006年1~7月の繊維品輸入は2%増の297億SMEとなり、特にパキスタン、インド、韓国、インドネシア等の中国以外の東アジア諸国からの輸入が大幅に増加している。

### 【7月の輸入】

米商務省が発表した2006年7月の米繊維品輸入は前年同月比4.8%増の45億5,100万SMEで、今年の輸入としては月間過去最高を記録した6月(47億5,400万SME)に続く高水準の輸入となった。

7月の輸入のうち、アパレルは、前月の微増(0.3%増)に続き2.0%の若干増にとどまり、やや停滞している。一方、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)は7.1%増で、5カ月連続の増加となり、活発に推移している。

地域別輸入では、トップ供給国の中国は7.5%増の16億6,200万SMEと、前々月の微増(1.9%増)、前月のマイナス(1.3%減)から、再び増加に転じている。

その他、パキスタン(8.3%増の3億1,800万SME)、インド(11.5%増の2億1,280万SME)、韓国(19.6%増の1億8,400万SME)、インドネシア(17.6%増の1億3,700万SME)、台湾(9.3%増の1億800万SME)といった東アジア諸国が大幅な増加となっている。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	▲0.7	16,103	0.4	32,812	▲0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	2.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,553	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6
10月	2,576	13.8	1,917	6.3	4,492	9.3
11月	2,420	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,235	5.7	1,596	5.9	3,830	5.8
2006年	17434	5.5	12,236	▲1.7	29,670	2.4
1月	2,502	10.9	1,698	3.2	4,200	7.6
2月	2,152	▲2.5	1,587	▲9.8	3,739	▲5.7
3月	2,361	0.9	1,687	▲2.4	4,048	▲0.5
4月	2,514	7.5	1,494	▲3.6	4,007	3.1
5月	2,702	6.2	1,668	▲2.1	4,371	2.9
6月	2,684	7.9	2,071	0.3	4,754	4.4
7月	2,519	7.1	2,031	2.0	4,551	4.8

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省（DOC）

【1～7月の輸入】

2006年1～7月の米繊維品輸入は、前年同期比2.4%増の296億7,000万SMEとなり、このうち、アパレルは2～5月の4カ月連続のマイナスが響いて1.7%減となったが、ノン・アパレルは5.5%増と順調で、全体の増加に貢献している。

1～7月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

- 主要地域別輸入では、いわゆるビッグ4（中国、韓国、台湾、香港）及びアセアン、更に「その他地域」の中のパキスタン、インド、バングラデシュといった東アジア諸国が伸びているが、米近隣のNAFTA（北米自由貿易協定）パートナー（メキシコとカナダ）及びCBI（カリブ海沿岸諸国）は大きく落込んでいる。
- ビッグ4からの輸入は5.2%増と堅調であるが、伸び率は前年1～7月期の27.7%に比べ

大幅に鈍化している。これは主に、ビッグ4 太宗国の中国が米繊維輸入規制により前年同期の45.8%増から3.7%増に減速していることによる。それでも、中国は全体の33%を占め、第1位供給国として米繊維輸入市場を席卷している。中国からの輸入では、衣料品が大幅減、織物が微増に対し、糸とその他繊維製品が大幅増となっている。

その他のビッグ4 構成国では、韓国と台湾は織物を中心にそれぞれ13.7%増、14.2%増、また香港は衣料品を主体に3.8%の増加となった。

### 米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1-7月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	29,670	2.4
NAFTA	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	3,552	▲12.8
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	2,059	▲10.3
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	1,493	▲16.0
CBI	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	2,157	▲11.9
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	659	▲9.9
エルサルバドル	768	817	895	895	897	410	▲23.3
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	343	▲20.1
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	12,072	5.2
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	9,791	3.7
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	1,254	13.7
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	673	14.2
香港	1,092	962	892	862	721	353	3.8
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	3,314	18.3
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	588	▲0.5
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	931	22.4
フィリピン	916	817	794	711	643	411	17.0
ベトナム	33	358	827	905	950	663	30.4
カンボジア	389	474	561	673	740	472	27.5
EU（15カ国）	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	1,060	▲9.1
イタリア	521	518	533	462	385	200	▲20.0
ドイツ	457	551	484	479	453	244	▲10.0
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	7,515	7.2
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	2,197	18.6
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	1,564	15.0
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	854	13.8
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	426	▲17.0

○ アセアンからの輸入では、タイは織物とその他繊維製品の不振で0.5%減となったが、

インドネシアが 22.4%増、フィリピンが 17.0%増、ベトナムが 30.4%増、カンボジアが 27.5%増と、何れも衣料品を中心に二桁の大幅増となり、アセアン全体で 18.3%増となった。なお、アセアンからの輸入は衣料品が全体の 72%を占めている。

- 一方、NAFTA パートナーからの輸入では、衣料品とその他繊維製品を中心とするメキシコは 10.3%減、糸と織物主体のカナダは 16.0%減となり、両国合わせて 12.8%減となった。
- また、CBI からの輸入は、主要国のホンジュラス、エルサルバドル、ドミニカ共和国がいずれも大幅な減少となり、全体で 11.9%減となった。CBI からの輸入では、アパレルが 97%と殆どを占めている。
- EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリアとドイツが共に織物の不振でそれぞれ 20.0%、10.0%の減少となり、全体で 9.1%減となった。
- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、パキスタンが 18.6%増、インドが 15.0%増、バングラデシュが 13.8%増と、いずれも大幅な増加となった。これらの東アジア諸国は、「ポスト・クオータ」の恩恵を享受して、衣料品とその他繊維製品を中心に対米輸出を活発に推進している。

## ◎ 2006 年 8 月の米大手小売店販売、堅調

2006 年 8 月の米大手小売店の販売は、夏物商品の在庫一掃セールや新学期用品販売 (back-to-school sale) の進展に支えられて堅調に推移した。

米国の国際ショッピング・センター協会 (ICSC) が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店 52 社の 2006 年 8 月の売上高は前年同月比 (既存店比、以下同じ) 2.9%増となった。

米小売アナリストは、「8 月の小売販売は、ガソリン高騰や住宅市場減速の影響で家具等の高級品は振るわなかったが、夏物衣料等の夏物商品の在庫一掃セール及び秋物衣料等の新学期用品販売が進展したことから、全体として堅調に推移した」と分析している。

衣料品を中心に、8 月のストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

- 大手百貨店の 8 月の販売では、高級百貨店は順調に推移したが、中級百貨店は斑模様であった。  
高級百貨店では、ノードストロムが 7.1%増、ニーマン・マーカスが 4.4%増、サクスが 3.3%増と、何れも売上げを伸ばした。

このうち、ノードストロムは、全ての品目が全てのストアで優れた売上げを示したが、特に女性用のインティメート・アパレル、デザイナー・アパレル、アクセサリーが好調であった。ニーマン・マーカスは、地域では南東部及び西部が好調であり、また商品では女性用のコンテンポラリー・スポーツウェアがトップ・セール品目であった。また、サクスでは、女性用のデザイナー／ブリッジ／モダン／コンテンポラリー・アパレル、ベター・スポーツウェア、ドレス、男性用スポーツウェア、子供用アパレル、アクセサリーがベスト・セール品目であった。

一方、中級百貨店は、コールズが 5.2%、フェデレーテッドが 3.8%のそれぞれ増加となったが、J. C. ペニーは 0.5%、ディラードは 1.0%、ボン・トン・ストアーズは 5.7%のそれぞれ減少となった。

このうち、J. C. ペニーは、「8月の販売では、女性用アクセサリー（特に、ファッション

### 米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	4.5
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	2.6
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	3.9
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	2.9
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

宝飾品とランジェリー）、子供用アパレルが好調であったが、家具などの高級品は低調であった。なお、7月中旬から9月初めにかけての新学期用品の販売は、一般的に予想通りに進んでいる」と説明している。

○ 大手衣料品専門店チェーンの8月の販売では、若者向け専門店のうち、アメリカン・イーグル・アウト

フィッターズが 11.0%増、リミテッド・ストアが 9.0%増、アバクロンビー&フィッチが 6.0%増、エアロポステールが 3.3%増となったが、パシフィック・サンウェアは 9.4%減、ギャップは 7.0%減となり、小売店によって販売の増減が大きく表れた。

このうち、アメリカン・イーグル・アウトフィッターズは、「8月の大幅な販売増は、デニム製品の販売促進やランジェリーのニューウェブ・サイトでの大量販売計画、トレンドに適した新学期用品の提供が牽引役となった。また、販売税免税期間（tax-free holiday）の8月へのシフトや南東部等の一部地域での新学期の遅いスタートも販売増の要因となった」と語っている。

また、リミテッド・ブランドは、傘下小売店では、エクスプレス（男性・女性用衣料品店）が 6%減、リミテッド・ストア（女性用衣料品店）が 1%減となったが、ビクトリアズ・シークレット（女性用下着店）が 18%増、バス・アンド・ボディワークス（バス用品店）が 13%増と大幅に伸び、アウター・アパレル部門の減少を補った。

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは依然として客足が低調で、7カ月連続のマイナスとなり、傘下ストアでは、バナナリパブリック（高級志向の衣料品店）が 2%増となったが、オールドネイビー（低価格路線の衣料品店）は 8%、ギャップ・ストア（ティーンエイジャー向け主体の衣料品店）は 11%のそれぞれ大幅減となった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンの販売は堅調に推移し、アン・テラー・ストアが 1.9%、ドレス・バーンが 2.0%のそれぞれ増加となった。

このうち、アン・テラー・ストアは、部門別では、アン・テラー・ロフト部門（手頃価格衣料品店）は 1%減となったが、アン・テラー部門（高級衣料品店）は 7%増で 13カ月連続の増加を記録した。アン・

テラー部門では、秋物の購買が進み、特にスーツ、クロップ・

パンツ（七分丈パンツ）、スカート、アクセサリが好反応を得た。また、アン・テラー・ロフト

部門では、ドレス、リラックス・

セパレート・アパレル、ニット・

トップスなどが好調であった。

- 大手ディスカウント・ストアの 8月の販売は、T J X が 4.0%増、ターゲットが 2.8%増、ウォル・マートが 2.7%増といずれも堅調に推移した。

このうち、最大手の小売企業であるウォル・マートは、「8月の販売は、当店の主力商品の食料品や日用品に加えて、ティーンエイジャーに狙いを絞った広告が奏功して、新学期用のファッション・アパレルやエレクトロニクス製品が伸びた」と説明している。

#### 2006年8月の米主要小売店の販売状況

単位；100万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
		前年同月比
<b>&lt;百貨店&gt;</b>		
ボン・トン・ストアーズ	225	-5.7
ディラード	557	-1.0
フェデレーテッド	1,727	3.8
J. C. ペニー	1,386	-0.5
<b>コールズ</b>	1,139	5.2
ニーマン・マーカス	262	4.4
ノードストロム	517	7.1
サクス	228	3.3
<b>&lt;衣料品専門店チェーン&gt;</b>		
アバクロンビー&フィッチ	351	6.0
アメリカン・イーグル・アウトフィッターズ	277	11.0
アン・テラー・ストア	149	1.9
ドレス・バーン	102	2.0
エアロポステール	159	3.3
ギャップ	1,150	-7.0
リミテッド・ブランド	639	9.0
メンズウエアハウス	96	8.5
パシフィック・サンウエア	169	-9.4
<b>&lt;ディスカウント・ストア&gt;</b>		
ターゲット	4,218	2.8
T J X	1,300	4.0
ウォル・マート	20,110	2.7

## 組合関係の会議と催事

【2006年9月】

### 輸出

I. 「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」に出展。

### 輸入

I. 第 142 回企画委員会（書面審議）開催。  
II. 「アパレル生産の実際知識」研修会（関西地区）を開催。

1 日（金）

**輸出**（大阪）①「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」の出展者の最終打合せ会が行われた。  
②独立行政法人日本貿易保険(NEXI)との新たな貿易保険システムに関する打合せ会が行われた。

4 日（月）～5 日（火）

**輸入**（大阪）ペガサスミシン製造㈱にて文化女子大学服装造形学研究室・正田教授を講師に迎え「アパレル生産の実際知識」研修会（関西地区）が開催され、組合員企業より 4 日/34 名、5 日/34 名が参加された。

7 日（木）

**輸入**（大阪）第 26 回「綿委員会」（砂山委員長）が開催され、①2006 年 7～9 月、10～12 月期綿糸・綿織物輸入見通し策定②インド TEXPLOCIL 訪日ミッション受入れ報告、その後、意見交換が行われた。

9 日（土）～12 日（火）

**輸出**（大連）「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」に、輸出組合のブースを設置し、組合員商社 3 社（蝶理、丸紅、西田通商）及び関連企業が出展した。

15 日（金）

**輸入**（東京）第 142 回企画委員会書面審議（塘委員長）を発送、①資金運用規定（案）について②中国商務部あて「増値税の輸出時還付率引き下げに関しての要望書」提出について、それぞれ審議が行われた。

21 日（木）

**輸出入**（大阪）近畿財務局より、繊維品の最近の輸出入動向に関するヒヤリングが行われた。

25 日（月）

**輸入**（東京）アパレル委員会（主要）正副委員長会（尾川委員長）が開催され、意見交換が行われた。

**輸出**（大阪）独立行政法人日本貿易保険(NEXI)との選択包括保険制の導入に関する打合せ会が行われた。

26日（火）～10/7（土）

輸入（バンコク）繊維貿易情報センター・古宮主任研究員が訪タイし、BIFF視察と関連企業及び繊維関連機関を訪問し、調査を行った。

29日（金）

輸出入（大阪）綿製品懇談会打ち合せ会議が行われた。

### 10月のスケジュール（10月16日現在）

3日（火）	輸出入	（台北）	「2006TITAS」開幕式
	輸出入	（東京）	第1回「繊維ビジョン・タスクフォース」
	輸出入	（東京）	「綿製品懇談会」
4日（水）	輸出	（大阪）	「繊維団体名刺交換会」打合せ会
6日（金）	輸入	（大阪）	関西OB会
11日（水）	輸出	（大阪）	「繊維品輸出荷主連合会」（TSA）の関西空港見学会
	輸入	（東京）	駐日バンラディッシュ大使表敬訪問来所
12日（木）	輸入	（東京）	第3回「組合運営に関するタスクフォース」 繊維貿易情報センター開所式
13日（金）	輸入	（大阪）	第83回「中国アジア専門委員会」
17日（火）	輸出入	（ソウル）	第20回「日韓繊維産連年次合同会議」
	輸入	（東京）	第339回「理事会」
18日（水）	輸入	（東京）	第104回「欧州・北米専門委員会」
20日（金）	輸入	（滋賀）	第27回「綿委員会」
26日（水）	輸出	（大阪）	平成18年度第2回「組合運営に関するタスクフォース」

－輸出組合が「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」へ出展－

日本繊維輸出

組合

輸出組合では 2006 年 9 月 9 日～12 日に中国/大連市で開催された「2006 中国(大連)国際服装紡織品博覧会」に組合員などよりの希望企業を募って、テキスタイルの展示商談のため「輸出組合ブース」を設置して出展した。概要は以下のとおりである。

「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」出展概要

名 称：「2006 中国（大連）国際服装紡織品博覧会」

主 催：中華人民共和国商務部

中国紡織協会

大連市人民政府

協 賛：中国紡織品進出口商会・中国服装協会・中国服装設計師協会

遼寧省経貿庁

実 行：大連市対外貿易経済合作局・大連国際服装展覽有限公司

会 期：2006 年 9 月 9 日（土）～12 日（火）

時 間：9 月 9 日（土） 9：30 ～ 17：00

9 月 10 日（日）～11 日（月） 9：00 ～ 17：00

9 月 12 日（火） 9：00 ～ 14：00

会 場：大連世界博覧広場 1F アパレル展示場 2F 素材・副資材等展示場

大連側事務局：大連国際服装展覽有限責任公司

輸出組合関連出展企業（テキスタイル）：

①丸紅株式会社 テキスタイル製品部 丸紅テックス株式会社

辰巳織布株式会社/宮田毛織工業株式会社/ダイショーニット株式会社

②蝶理株式会社

ひかり商事株式会社

③西田通商株式会社

株式会社トクマン

④宇仁繊維株式会社

実績：商談件数（124 件）、成約見込件数（9 件）、代理店申込件数（5 件）等

## ◎ 繊維品輸出荷主連合会、「関西国際空港見学会」を実施（輸出組合）

輸出組合が参画している繊維品輸出荷主連合会（TSA）は、10月11日、大阪税関広報広聴室の協力を得て、以下の行程でもって関西国際空港の見学会を実施した。見学会参加者は19名であった。

## 【行程】

12時50分	本町（輸出繊維会館）発（－大阪税関公用車にて移動－）
13時50分	関西空港税関支署（地方合同庁舎）着
14時00分	①税関PRビデオ視聴「貿易の明日を担って」 輸出入通関の流れ等の説明
	②関西空港Ⅱ期工事（地方合同庁舎屋上より見学）
	③通関部門窓口見学
	④税関検査場見学
15時15分	関西空港税関支署 発 －麻薬探知犬管理センターまで大阪税関公用車にて移動－
15時45分～16時15分	麻薬探知犬説明・デモ見学 －大阪税関公用車にて移動－
17時00分頃	本町着、解散

## －輸入組合/繊維貿易情報センターを設置－

輸入組合では2003年12月より活動を行っている「中国繊維情報センター」業務を  
発展させ、組合員への情報提供業務等の業務を一元化し、組合機能の向上と迅速化を  
図りながら組合員へのサービス強化と組合員の組合利用の環境整備の一環として、  
「繊維貿易情報センター」を設置した。同センターは輸入組合東京本部1階に設置され、  
去る10月12日（木）に開所式が行われた。

## 繊維貿易情報センター設置概要

## 1. 目的

当組合は、2005年からのWTOの繊維協定失効による中国の輸出クォータ制度廃止と、  
欧米の新たな輸入制限問題の動向把握やその他関連情報の収集等を主目的に、2003年  
12月から中国繊維情報センターを設置し、中国の繊維貿易などに関する情報を収集し  
組合員に配信してきた。

また昨年からは、FTA協議の進展などの貿易環境変化に合わせた繊維貿易政策研究として、  
インドとタイに関して専門家2名に委嘱し、それぞれの国の繊維産業および素材背景などを  
調査し、組合員への情報提供を行っている。

中国からの繊維輸入は人民元高、人件費上昇、輸出増徴税の還付率引き下げなど輸出  
コストの上昇が目立ち始めている一方、FTA交渉はベトナムやインドネシア等のアセアン  
諸国、インドなど相手国を広げつつ進展している。こうした貿易環境の変化にともない、  
組合員への情報提供業務等の業務を一元化し、組合機能の向上と迅速化を図りながら組合員  
サービス強化と組合員が組合をより利用しやすい環境整備の一環として、「繊維貿易情報  
センター」を設置する。

## 2. 内容

- (1) 中国、アセアン諸国（当面はタイとし順次必要国に広げる）、インド等各国の繊維  
産業に関する貿易・生産等の統計及び諸情報、関係文献等の収集と整備、及び組合  
員に対する提供
- (2) 収集した情報の要点を、中国に関しては随時、その他の国については Monthly  
Report 等で組合員に提供
- (3) 繊維製品の対日輸入に関する組合員への個別的な一般的アドバイス

- ・ 素材別産地
- ・ 品目別に適した garments の産地
- ・ 品質/納期等にかかわるアドバイス
- ・ 商標等の法制度
- ・ その他

- (4) 組合又は組合員の要望により海外繊維産業に関するセミナーや講演の実施
- (5) 個別の組合員の求めに応じての出張アテンドや現地の製造業者等へ案内
- (6) 経済産業省や日本繊維産業連盟等繊維業界に対する関連事項での協力
- (7) その他組合/組合員からの個別要望事項に対応

### **3. 実施体制**

- (1) 当事業のための専用事務スペースを、日本繊維輸入組合東京本部事務所1階に設置。  
繊維貿易に関する資料等を順次備え組合員の自由な利用環境を整備
- (2) 前年度実施した貿易政策研究事業と中国繊維情報センターを統合し拡充
- (3) 当面は事業のスタートとして必要最小限の人員配置とし、インド担当に神山義明氏、タイ担当に古宮滋氏、貿易業務・西欧地区担当に大谷巖氏を主任研究員兼アドバイザーとして委嘱。今後必要に応じて対象地域の拡充を図り地域ごとの専門家に委嘱。  
事務局には担当者（兼任1名）を配置

### **4. 費用**

- (1) 組合員の相談に関しては無料
- (2) アドバイザーの海外アテンド等の直接費用は利用者の実費負担

以上



お知らせ

◎ 2007年度からの組合包括保険の利用  
についての回答の依頼（輸出組合）

現在、日本繊維輸出組合の組合員については、独立行政法人日本貿易保険と輸出組合とが締結している組合包括保険の特約書の対象となる輸出取引についてはすべて保険の申し込みをしていただく義務がありますが、2007年4月から、組合員であっても、組合包括保険を利用いただくか否かについて組合員各位ごとに決めていただけることになり、以下の通り、10月3日付け組合員通知にてご案内致しましたので、10月31日までに、組合員通知添付の別紙用紙により組合事務局宛 FAX にてご回答いただきますようお願い申し上げます。

平成 18 年 10 月 3 日

組合員 各位

独立行政法人日本貿易保険  
大阪支店長 松本 敏明  
日本繊維輸出組合  
専務理事 内海 博基

2007年度からの組合包括保険ご利用について（ご回答の依頼）

貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素は貿易保険をご利用いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、ご存じの通り、現在、日本繊維輸出組合にご加入いただいている組合員様につきましては、日本貿易保険と日本繊維輸出組合とが締結している組合包括保険の特約書の対象となる輸出取引については、すべて保険の申し込みをしていただく義務がございますが、昨年来から、日本貿易保険において組合包括保険制度の抜本の見直しの検討を行ってまいりました結果、2007年4月から、日本繊維輸出組合の組合員様であっても、組合包括保険をご利用いただくか否かについて組合員様ごとに決めていただけることになりました。

つきましては、2007年4月からの包括保険のご利用について、10月31日までに、別紙により組合事務局宛 FAX にてご回答いただきますようお願い申し上げます。

なお、本件についてのお問い合わせ等につきましては下記あてにお願いいたします。

<本件及び貿易保険全般に関するお問い合わせ先>

●独立行政法人 日本貿易保険 大阪支店 管理・業務グループ：岸田、乾  
〒541-0041 大阪市中央区北浜 3-1-22 （京阪・地下鉄御堂筋線淀屋橋駅1番出口すぐ）  
TEL：06-6233-4017 FAX：06-6233-4001  
e-mail：info-osaka@nexi.go.jp

●日本繊維輸出組合 総務部：担当者 鬼頭、弓場  
TEL：06-6201-1812 FAX：06-6201-1814

日本繊維輸出組合 行き (FAX: 06-6201-1814)

(締め切り: 平成18年10月31日)

どちらかに○をつけてください

**2007年4月からの組合包括保険の利用を**

- ・ **継続する**
- ・ **停止する**

会社名 \_\_\_\_\_

提出者(役職) \_\_\_\_\_

〃 (氏名) \_\_\_\_\_ 印

電話番号 \_\_\_\_\_

FAX番号 \_\_\_\_\_

**【 注 意 】**

組合包括保険のご利用を継続される場合は、従来と同様、包括特約の対象となる輸出契約については、すべて、保険をお申し込みいただく義務があります。

組合包括保険のご利用は、1企業単位となっておりますので、会社全体として、ご利用いただくかどうかについてお考えいただいた上でご回答ください。

なお、一度、組合包括保険のご利用を停止された場合は、1年経過後の最初の日本繊維輸出組合と日本貿易保険との間の包括特約締結時(4月1日)までは組合包括保険を再びご利用いただくことはできません。

ご回答内容を変更される場合は、組合事務局までご相談ください。

期限までにご回答がない場合は、勝手ながら組合包括保険を継続する意志があるとみなさせていただきます。

お知らせ

◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」  
(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 11 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。

保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- \* 平成 18 年 5 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- \* 平成 17 年 11 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 18 年 11 月 20 日 (月)
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険(繊維品)  
保険期間延長依頼書..... 2 通  
(用紙は事務局で準備しています。)  
② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー.... 1 通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)

保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2006 年 5 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	102322～ 102933 ----- 504577～ 505622	101043～ 101325	100098～ 100115

前受け以外に係る 2005 年 11 月度受付保険申込書番号

記号 \ 受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	106933～ 107670 ----- 509287～ 510120	103131～ 103480	100321～ 100337

お知らせ

◎ 「イラン」向け引き受け方針の変更（輸出組合）

このたび貿易保険当局から、“「イラン」（国コード：133）向けの引き受け方針を変更し実施日より適用いたします。”旨連絡がありましたのでご通知します。

この結果、以下の取扱いとなります。

1. 引受限度額 : 新—10億円

※ 10億円超の案件については、他の主要な輸出信用機関と同様、個別にリスク審査の上、引き受ける。

**2006年9月13日以降に Saderat 銀行が発行した USD 建て L/C は対象外。**

旧—10億円

※ 10億円超の案件については、他の主要な輸出信用機関と同様、個別にリスク審査の上、引き受ける。

注：包括保険申込時に決済が L/C で支払国がイランの場合は必ず支払国欄に銀行名を記載して下さい。

2. ILC 取得条件 : 有り（据置き）

3. 国別倍率 : 4.5倍（据置き）

\* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

4. 実施日 : 平成18年9月25日

## お知らせ

### ◎ イラン・Saderat 銀行関係の米ドル建て L/C の取扱い（輸出組合）

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“イラン・Saderat 銀行関係の米ドル建て L/C の取扱いについて” の連絡がありましたので、下記のとおり通知します。

#### 記

9月8日付け米国財務省発表のイラン・Saderat 銀行関連取引に対する規制強化を受けて、同行の発行する米ドル建て L/C による決済等が行われず、輸出代金回収不能の事態が発生した場合には、原則的に、非常事故として認定することにいたします。

そのような前提のもとに、被保険者の皆様におかれましては、損失防止の観点から、以下に記載するような輸出契約等にかかる損失防止に努めていただきたいと思います。これにより、保険金支払後に、被保険者の皆様に履行していただく回収義務に係る負担が軽減または回避できると思われますので、ご対応の程よろしくお願い申し上げます。

損失防止の方策として、主に次の事項が考えられます。

1. Saderat銀行発行の米ドル建てL/Cについては、他通貨への変更、あるいは、発行銀行の変更を、バイヤー及び買取銀行等と交渉いただくこと。なお、その際、交渉手続に係る書類は保管してください。
2. 既に船積みを完了し、米ドル建てL/Cネゴを完了している案件についても、上述1. 同様にL/Cの変更等の交渉をしていただくこと。

### ◎ スリーピングバイヤーに関する処理（輸出組合）

このたび、独立行政法人日本貿易保険から、スリーピングバイヤーに関する処理について、以下の通り連絡がありましたので、お知らせ致します。

#### ○ スリーピングバイヤーに関する処理について

2007年1月4日に、2006年12月末までに登録されたバイヤーを収録した海外商社名簿を更新いたします（新名簿）。この更新の際、旧名簿に収録されたバイヤーのうち過去2年間に貿易保険の利用がなかったバイヤーにつきましては、スリーピングバイヤーとして新名簿の収録から外れることとなります。

スリーピングの候補となるバイヤーについて新名簿への収録をご希望される場合は、下記申請期間中に、スリーピングの解除申請の為に書類を提出していただくことが必要となります。詳細は下記の通りです。

## 記

### 1. 申請期間

2006年10月2日(月)～12月28日(木)

※ 解除申請がなされたバイヤーは、名簿更新時(2007年1月4日)に新名簿に収録します。

### 2. 申請窓口

○独立行政法人日本貿易保険大阪支店 TEL: 06-6233-4017 FAX: 06-6233-4001

○財団法人貿易保険機構 本部 TEL: 03-3580-0024 FAX: 03-3580-0292

名古屋支部 TEL: 052-201-2221 FAX: 052-201-7014

大阪支部 TEL: 06-6271-3331 FAX: 06-6271-4343

### 3. 提出書類

① スリーピング候補バイヤー解除申請書(海外商社名簿及び与信枠関係手続細則 別紙様式第5)

複数申請の場合、申請書1通に対して解除バイヤー名を別紙に記載しても可。

② バイヤーの名称及び住所が確認できる書類(輸出契約書・注文書等)

バイヤーの名称及び住所が変更していなければ②は、添付不要。

(注) ○FAXによる申請も可能です。

○提出部数は一通です。

○信用調査報告書の添付は不要です。

### 4. 注意事項

スリーピングバイヤーの対象となるバイヤーを、2007年1月4日以降に再度登録する場合は、通常の新規登録と同じ手続きが必要となります。

※なお、対象バイヤーおよび解除申請書書式はHP: <http://nexi.go.jp/>を開けて→「その他トピックス」にある「2007年海外商社登録名簿更新に伴うスリーピング処理について」をご覧ください。

## お知らせ

－ 2006 年 11 月の輸入通関手続相談窓口開設日 －

2006 年 11 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。  
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題  
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

### 記

1. 開催日 2006 年 11 月 8 日（水）及び 11 月 22 日（水）
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片山 喬次  
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E-Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、  
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件  
事務局担当：国信までご連絡下さい。

## 組合員情報

### ◎ 組合員の脱会

(輸出) 株式会社華東聯合有限公司 (9月6日付け)